

# 品質規定の見直し

---

# 目的、検討の進め方

## 目的

- 新技術の導入促進や、施工の自由度を高め受注者の創意工夫を促進するため
  - 仕様規定から性能規定へ見直し
  - 性能規定に対応した検査方法の検討

## 検討の進め方

- ① 新技術の導入等にあたって、制約となっている規定の抽出  
(今回、他発注機関で、規定のあり方が検討されているスランプ値を対象として検討)
- ② 新技術の導入等を促すための、新たな規定の検討
- ③ 新たな規定に対する検査方法の検討

## スランプ規定

- 流動性を高めたコンクリートの活用を設計段階から検討できるよう、スランプ規定について見直しを検討

## 現状

- ◆ コンクリートのスランプ値は、発注仕様等でJIS規格値を使用
- ◆ このため、流動性の高いコンクリートが設計段階で採用される例は少ない
- ◆ また、施工段階で個別協議により流動性の高いコンクリートを使用している事例もあるが、施工者が標準スランプでは十分な施工ができないことを示す必要がある

## 仕様の見直し

- ◆ 発注時等におけるスランプ値の規定方法の見直し
- ◆ 上記見直しに伴う、コンクリートの品質確認のための検査方法の見直し、等

## 見直しによる効果

- ◆ 打設時の生産性向上
- ◆ 設計変更や協議に係る労力の低減

# スランプ規定の見直しについて(案)

## スランプ規定の見直し案

### 案1

- スランプ及びスランプフロー値を参考値とし、品質の確認について、空気量と水セメント比による確認で対応
- 高密度配筋の構造物など、流動性の高いコンクリートが効果的に活用出来る工種、部位から試行的に採用を検討。採用にあたっては、コストについても検討

### 案2

- スランプ及びスランプフローについて、構造・配筋を考慮して適切なスランプ値を設計段階で検討・設定する
- 品質の確認については、従前の項目による

# スランプ規定の見直し:案1について

## 案1による見直し(イメージ)

### 【レディーミクストコンクリート使用にあたっての確認項目の規定】

仕様規定	発注時	基準	土木工事共通仕様書
		項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スランプまたはスランプフロー</li> <li>・強度</li> <li>・空気量</li> <li>・水セメント比、等</li> </ul>
検査方法	施工前	基準	土木工事共通仕様書
		項目	配合試験(スランプ、水セメント比、空気量、粗骨材の最大寸法、等)
	施工時	基準	土木工事施工管理基準
		項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スランプ試験</li> <li>・圧縮強度試験</li> <li>・空気量試験</li> <li>・単位水量試験、等</li> </ul>
	施工後	基準	土木工事施工管理基準
		項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひび割れ試験</li> <li>・テストハンマーによる強度推定調査、等</li> </ul>



見直しの方向性	
土木工事共通仕様書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スランプまたはスランプフロー</li> <li>・強度</li> <li>・空気量</li> <li>・水セメント比、等</li> </ul>
土木工事共通仕様書	配合試験(スランプ、水セメント比、空気量、粗骨材の最大寸法、等)
土木工事施工管理基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スランプ試験</li> <li>・圧縮強度試験</li> <li>・空気量試験</li> <li>・水セメント比の確認(※コンクリート納入書での確認を想定)</li> <li>・単位水量試験、等</li> </ul>
土木工事施工管理基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひび割れ試験</li> <li>・テストハンマーによる強度推定調査、等</li> </ul>

参考値とすることを検討

追加を検討

## ご議論頂きたいこと

- スランプ規定について、発注仕様（性能規定の仕方）や検査方法のあり方としてどの様な方法が適切か
- 見直すべき規定は、他にどの様な規定があるか